



水道事業会計

令和6年度決算の概要について

収益的収支（3条予算） 【税抜き】

- ▶ 当該年度の企業の経営活動に伴い発生するすべての収益とそれに対応するすべての費用を計上します。

（単位：円）

	R 6 決算額	R 5 決算額	増減	R 6 予算に対する執行率
水道事業収益	6,264,753,084	6,313,220,731	△48,467,647	99.6%
営業収益	5,838,963,906	5,890,294,026	△51,330,120	99.2%
（うち給水収益）	(5,167,071,340)	(5,169,467,045)	(△2,395,705)	(98.6%)
営業外収益	425,759,558	422,785,029	2,974,529	107.4%
特別利益	29,620	141,676	△112,056	213.3%

	R 6 決算額	R 5 決算額	増減	R 6 予算に対する執行率
水道事業費用	5,810,409,455	5,889,688,359	△79,278,904	95.7%
営業費用	5,714,662,546	5,784,360,982	△69,698,436	95.8%
営業外費用	94,272,929	100,461,253	△6,188,324	98.1%
特別損失	1,473,980	4,866,124	△3,392,144	30.8%
純利益	454,343,629	423,532,372	30,811,257	—

収益的収支のポイント①

■ 水道事業収益 62億6,475万3,084円（前年度比4,846万7,647円の減）

◎主な収入：給水収益 51億6,707万1,340円

その他の営業収益 6億5,467万6,566円

◎主な増減要因：その他営業収益の減少（前年度比4,690万9,415円の減）

⇒住宅の新築が減少したことにより水道利用加入金が減少したため。

■ 水道事業費用 58億1,040万9,455円（前年度比7,927万8,904円の減）

◎主な支出：原水及び浄水費 26億7,589万4,623円

減価償却費 18億2,323万9,118円

◎主な増減要因：原水及び浄水費の減少（前年度比1億8,998万1,285円の減）

⇒前年度は新宿浄水場配水池修繕で1億8,041万8,810円支出したが、令和6年度は浄水場等の大規模な修繕がなかったため。

配水及び給水費の増加（前年度比1億2,334万1,781円の増）

収益的収支のポイント②

▶ 純利益

4億5,434万3,629円（前年度比3,081万1,257円の増）

⇒主な要因は、大規模な修繕が無かったこと等により原水及び浄水費等の事業費用が減少したため。

▶ 経常収支比率（経常費用を経常収益でどの程度賄えているかを示した指標）

107.85%（前年度 107.28%）： $(\text{経常収益} \div \text{経常費用}) \times 100$

経常収益 = 営業収益 + 営業外収益 : 62億6,472万3,464円

経常費用 = 営業費用 + 営業外費用 : 58億0,893万5,475円

▶ 料金回収率（給水に要した費用を料金収入でどの程度賄えているかを示した指標）

95.75%（前年度 94.55%）： $(\text{供給単価} \div \text{給水原価}) \times 100$

供給単価（有収水量 1 m³当たりの水道料金） : 141.54円（前年度 141.11円）

給水原価（有収水量 1 m³当たりにかかった費用） : 147.82円（前年度 149.25円）

供給単価 - 給水原価 : 141.54円 - 147.82円 = 6.28円の差損が発生している



資本的収支（4条予算） 【税込み】

- ▶ 市民に対するサービスの提供を維持するための諸施設の整備、更新など建設改良のための支出とその財源となる収入を計上します。

(単位：円)

	R 6 決算額	R 5 決算額	増減	R 6 予算に対する執行率
資本的収入	1,059,536,712	1,021,147,119	38,389,593	90.5%
企業債	800,000,000	600,000,000	200,000,000	100.0%
国庫補助金	0	4,221,000	△4,221,000	—
他会計負担金	37,994,000	43,145,000	△5,151,000	97.8%
工事負担金	131,685,610	267,005,219	△135,319,609	52.0%
水道施設加入金	89,854,600	106,407,400	△16,552,800	114.9%
固定資産売却代金	2,502	368,500	△365,998	250.2%
	R 6 決算額	R 5 決算額	増減	R 6 予算に対する執行率
資本的支出	3,158,072,261	3,466,024,127	△307,951,866	92.0%
建設改良費	2,557,854,599	2,792,324,317	△234,469,718	90.5%
企業債償還金	600,217,662	673,699,810	△73,482,148	100.0%
資本的収支の不足額	2,098,535,549	2,444,877,008	△346,341,459	—

資本的収支のポイント①

- **資本的収入 10億5,953万6,712円（前年度比3,838万9,593円の増）**
 - ◎主な収入：企業債 8億円
 - ◎主な増減要因：企業債の増加（前年度比2億円の増）

- **資本的支出 31億5,807万2,261円（前年度比3億795万1,866円の減）**
 - ◎主な支出：配水管改良費 23億8,886万1,675円
 - ◎主な増減要因：新営改築費の減少（前年度比2億3,953万3,180円の減）
⇒浄水場等の大規模な工事の支出額が少なくなったため。

- **資本的収支の不足額 20億9,853万5,549円（前年度比3億4,634万1,459円の減）**
 - ◎損益勘定留保資金等の内部留保資金で補填しました。

資本的収支のポイント②

■ 工事の状況

布設工事：337m（大字古谷上地内配水補助管布設工事等）

改良工事：13,643m（橋梁添架管改良工事（大字笠幡）等）

原水浄水施設維持及び改良事業（新宿浄水場配水ポンプ設備更新工事、
新宿浄水場電気設備更新工事等）

■ 有形固定資産減価償却率（償却対象資産に対する減価償却累計額の比率）

53.98%（前年度 53.64%）

■ 管路経年化率（法定耐用年数を超えた管路延長の比率）

31.00%（前年度 30.08%）

■ 管路更新率（当該年度に更新した管路延長の比率）

0.91%（前年度 1.04%）

収益的収支と資本的収支の関係 (3条予算と4条予算)

3条予算



内部留保資金

損益勘定留保資金、
消費税資本的収支
調整額

減債積立金、建設
改良積立金、未処
分利益剰余金

4条予算

資本的収入

企業債、補助
金、負担金な
ど

内部留保資金
による補填

資本的支出

工事請負費、
企業債元金の
償還など

企業債残高と内部留保資金残高の推移



▶ 企業債残高（建設改良のための借金）

70億1千万円～72億2千万円の間で推移しています。



▶ 内部留保資金残高（建設改良のための資金）

33億4千万円～38億8千万円の間で推移しています。

令和6年度決算のまとめ

- ・水道事業の純利益は、前年度と比べて3,081万1,257円増加し、4億5,434万3,629円となりました。
 - ・経営の健全性を示す「経常収支比率」は、前年度比0.57ポイント増の107.85%で、健全経営の水準とされる100%を上回っています。
 - ・料金水準の妥当性を示す「料金回収率」は、前年度比1.20ポイント増の95.75%となったものの100%を下回っており、事業に必要な費用を給水収益で賄えていません。
 - ・償却対象資産の減価償却の状況を示す「有形固定資産減価償却率」は、前年度比0.34ポイント増の53.98%、法定耐用年数を経過した管路延長の割合を示す「管路経年化率」は、前年度比0.92ポイント増の31.00%と施設の老朽化が進んでいるのに対して、当該年度に更新した管路延長の割合を示す「管路更新率」は、前年度比0.13ポイント減の0.91%に留まっています。
- ⇒今後、施設の老朽化がさらに進行することが見込まれるので、将来の更新需要に備えた計画的な施設更新を進める必要があります。